

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅰ	
担当教員の実務経験	金融機関での採用人事担当経験	
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	45コマ ・ 3 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	・ 社会人として必要となるビジネスマナーの基礎を学ぶ ・ 就職活動に必要な書類の準備、書き方・面接の指導を行う	
授業の到達目標	・ 講義、実習、模擬面接を通して今後の就職活動に生かしていくことができる ・ 希望就職先の内定	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（60点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
身だしなみ、あいさつ、敬語		3
電話応対、聞く力		3
社会人としての心構え		3
自己分析の仕方、自己PRの仕方		3
就職活動の進め方		3
志望動機		3
履歴書の書き方		4
対人不安の克服の仕方		3
社会人に必要な法律知識		2
面接に向けての配慮事項		1
～模擬面接～		4
面接指導		3
合 計		45
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会・集団・家族心理学(社会・集団)
担当教員の実務経験	
対象学生	心理学科4年
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	社会心理学の研究対象は「社会認知」「社会影響」「対人行動対人相互作用」「個人と集団」「マス」などの多岐にわたる。本講義では、実験や調査データに基づきながら、社会心理学について学び、対人関係や集団における人の意識・態度と行動についての心の過程について考え、日常生活における自己や他者を理解するための視点を獲得することを目的とする。
授業の到達目標	福日常生活における自己や他者を理解するための視点を獲得し、レポートおよび科目試験の合格を目指す。
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	山田一成、他『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房。
授業上の注意点	

授業計画（内容）		コマ数
社会心理学とは何か 社会心理学の課題と研究視点について		1
社会心理学の研究方法 社会心理学の主な研究方法（調査法、実験法）について		1
印象形成 印象形成の過程について		1
帰属 内的帰属、外的帰属、エラーとバイアスについて		1
態度と態度変容、説得 認知的均衡理論、認知的不協和理論、依頼と説得について		1
勢力と服従 社会的勢力、権威への服従について		1
社会的比較 社会的比較理論について		1
多数派と少数派について 同調と少数派の多数派への影響力について		1
社会的スティグマ 社会的スティグマ、ステレオタイプについて		1
自己呈示 自己過程（自己認知、自己概念、自己評価、自己呈示）について		1
援助行動と攻撃行動 援助行動の促進要因と抑制要因、攻撃行動の生起と抑制について		1
集団意思決定 リスクシフトと集団極性化について		1
集団内ひいきと集団間葛藤 社会的アイデンティティ理論、自己カテゴリー化理論、一般互酬性仮説について		1

囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 囚人のジレンマとナッシュ均衡、社会的ジレンマについて	1
マスコミュニケーションについて 議題設定機能、培養理論、沈黙の螺旋仮説について	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	司法・犯罪心理学	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にエングローソの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付付との関連等について理解し、パーソナリティ要因としては行為障害や人格(パーソナリティ)障、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の 激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。 また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに 犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解も深めながら、犯罪心理学という学問がある心理職かどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。以上の学修を通して、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について、理解を深める。	
授業の到達目標	犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について、理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	越智啓太『Progress&Application 犯罪心理学』サイエンス社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
オリエンテーション ― 犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか 犯罪とは何か、社会の安定と破綻としての「犯罪」、従来成文化あるいは宗教的戒律に基づき犯罪、そして法の下での「犯罪」＝罪刑法定主義へと、犯罪と刑罰の歴史について概観する。次に、我が国の刑法の例を挙げ、刑法に定める行為が犯罪とされ有罪とされるための条件について説明。最後に、犯罪の種類が多様化する一方、凶悪犯罪が増えているかという問いかけにつき考察、犯罪心理学における科学的な分析と考察の重要性について学ぶ。		1
人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の生物学的原因論 犯罪の生物学的原因論について、人類学的立場からエングローソの生来性犯罪者説を紹介。また、犯罪と遺伝との関連から、犯罪者の家系研究、養子研究、双生児の研究を、さらに犯罪と環境との関連では野生児の研究を、また、医学的、病理学的関連からホルモンと犯罪、神経伝達物質と犯罪などについて学ぶ。最後に、現在の犯罪心理学では、環境が遺伝かという二元論ではなく、素質と環境両方の要因の相関関係に求めるクルト・レビンの $B = F(P \cdot E)$ の公式について考察する。		1
人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の心理学的原因論 犯罪の心理学的原因論について、精神疾患、知的障がいと犯罪との関係について言及したのち、フロイトの精神力動的アプローチを紹介。次いで、犯罪と性格特性との関係で、グリュク夫妻の研究や敵意帰属バイアス、敵意的反動傾向、セルフコントロールの欠如、サイコパス(psychopathy)傾向、生涯持続型反社会性などについて学ぶ。さらに、犯罪と家族関係、犯罪とメディア、特に、暴力的な映画やテレビ番組と暴力犯罪やポルノメディアと性犯罪の増加との関係等について考察する。		1
人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の社会学的原因論 犯罪の社会学的原因論の観点から、アミー理論(緊張理論)、分化的接触理論、分化的同一化理論、社会的絆理論(social bond theory) 又は統制理論(control model)、漂流理論・ドフト理論(drift theory)、ラベリング理論(Labeling theory)、割れ窓理論(broken window theory)等について学ぶ。		1
犯罪の種類と犯罪の心理(1)暴力犯罪(暴行、傷害、殺人) 暴力犯罪について、まず、その代表である殺人・傷害事件について、その定義と現状について説明する。そのあと、計画的な暴力犯罪と衝動的な暴力犯罪、ホームズの連続殺人犯の分類、秩序型と無秩序型についてテッド・バンディ事件の例などを挙げて考察。その他、女性による連続殺人、宗教テロリズム、又「秋葉原大量殺傷事件」や「津山30人殺し」「八つ墓村」事件の例などを挙げながら、無差別大量殺傷事件の原因と行動パターンの共通性等について学ぶ。		1
犯罪の種類と犯罪の心理(2)性犯罪 性犯罪について、特にその代表的犯罪であるレイプ(強姦)を採り上げ、レイプの定義と現状を紹介し、知人間レイプ、ストレンジャー・レイプについて触れたあと、ナイトとプリンキーによるレイプ犯人の分類とレイプ犯人の犯行のテーマに関する研究を紹介。また、性犯罪者の多くに見られるレイプ神話(rape myths)、そして最後に、レイプ犯罪に関する偏見とセカンドレイプについて言及。最後に、子どもに対する性犯罪についても触れる。		1
犯罪の種類と犯罪の心理(3)DV、ストーキング ドメスティック・バイオレンスとストーキングについて、ドメスティック・バイオレンス(Domestic Violence)の定義と現状、ドメスティック・バイオレンスの原因、離脱するが困難なドメスティック・バイオレンスの特質とその対処法について学ぶ。ストーキング(stalking)については、その定義と現状、ストーカーの特性、拒絶型、憎悪型、親密希求型などストーカーの分類、ストーカーの危険予測について学ぶ。		1

犯罪の種類と犯罪の心理(4) 窃盗、強盗、 まず窃盗犯罪に関しては、窃盗の定義と現状、侵入窃盗、内部窃盗、万引きなどをブースター型、スニッチ型などの分類に従って説明。強盗に関しては、強盗の定義と現状、強盗犯のテーマ、そして強盗のタイプを、プロフェッショナルタイプ、盗賊タイプ、カウボーイタイプ等に分け、あるいは、路上強盗、銀行強盗・金融機関強盗といった分類で説明。その他、ホワイトカラー犯罪やコンピュータ犯罪についても学ぶ。	1
犯罪の種類と犯罪の心理(5) 放火、誘拐、監禁 放火は、日本の火災原因のトップであり、犯行の隠蔽、復讐、保険金目当てのほか、老人、子ども、女性、自信欠如者などが不満解消、鬱憤晴らし、八つ当たりの行方「弱者の犯罪」とも言われている。また、放火が、手段としての放火、放火症(ピロマニア)、もうろう状態での放火の三つに分けられることについて学ぶ。誘拐、監禁については、その原因背景として、意のままに他人を支配したいという支配欲、ヒトと家畜との関係への「先祖がえり」、サディズム(性嗜好異常の一類型)といった概念を紹介。また、誘拐の目的から、強制財せつや強姦を目的とする通称「わいせつ誘拐」、人質の安全・解放と引き換えに近親者から多額の金品を奪おとする「身の代金目的略取等」を目的とするものに分けて説明する。犯人の中には、空想虚言者、粘着気質の者、衝動的な境界性パーソナリティ障害者などからなる。その他、人質を面取り監禁し、物質的、個人的な利益を得ようとする「三菱銀行人質強盗殺人事件」事件や「日航と号/Vジャンプ事件」と政治・思想的な背景をもつ事件もあることに言及する。監禁された被害者が加害者に親近感を感じるストックホルム症候群についても学ぶ。	1
犯罪の種類と犯罪の心理(6) いじめ、虐待 いじめについて、その現状背景を、人間の本能的攻撃性、過剰な競争や格差社会のストレス、自己統制能力の未熟等の観点から考察する。また、陰湿ないじめが子どもの自殺をもたらす深刻な社会病理についても言及する。その他、ハルウェイの生物学者ラルフ・シェンデラップによって「社会のイジメ現象(Pecking Order)」の研究と「イジメの構造」についても紹介する。虐待については、その定義と現状、また、その内容について、身体的虐待、性的虐待(sexual abuse)、ネグレクト、心理的虐待(emotional abuse)、代理(による)ミュンハウゼン症候群(Munchausen Syndrome by Proxy:MSbP)、虐待の連鎖(intergenerational transmission of abuse)などについて学ぶ。その他、最近問題になっている高齢者虐待についても触れる。	1
事例研究 (各受講生による事例研究とレポートの報告、講師によるコメント等) 各受講生が、自分の関心のある犯罪事件の事例を一例取り上げ、その動機や原因背景、また犯罪者の心理について分析、考察し、その結果を小レポート(1200 字程度)にまとめて提出する。	1
犯罪捜査 まずプロファイリング(profiling)に関し、FBI方式やリッパール方式(Offender profiling or criminal profiling)、そして地理的プロファイリングなどその歴史と現状を紹介。併せて、我が国における歴史とプロファイリング発動事件の例として世田谷一家惨殺事件を取り挙げる。次に、ポリグラフ検査(polygraph test)について、ポリグラフ検査の質問法(犯行知識検査 = GKT Guilty Knowledge Test)及び中枢神経系指標を用いたポリグラフ検査(脳波検査)を紹介。その他、目撃証言や取調べ過程の科学的研究、あるいは似顔絵モニター、ジュ写真による犯罪捜査についても学ぶ。	1
犯罪予防 犯罪予防について、心理学の知識を効果的に用い、犯罪を起させないよう工夫すればよいのかを明らかにしていく。まず、環境設計による犯罪予防として、「フレイット・アイゴーの悲劇」の例を挙げ、犯罪から守りやすい(住)空間を作り上げる必要性について考察する。また、ジェフリーによる防犯環境設計(OPTED)理論や状況的犯罪予防、防犯について有名な理論である「ルーティン・アクティビティ・セオリー」などについて紹介する。その他、ウイリソンとケリングの「割れ窓理論」やメーガン法、わが国の「社会を明るくする運動」等の犯罪予防活動や地域活動についても学ぶ。	1
犯罪者の処遇・社会復帰1 矯正における犯罪者処遇 有罪となり懲役刑が確定すると刑務所など刑事施設に入所する。刑務所(刑事施設)では、受刑者の刑罰執行(処遇)される。処遇の一つが「作業」で、懲役刑では、一定の期間の作業が義務づけられる。処遇のもう一つが「矯正指導」である。少年については、少年院送致の保護処分を受けた者が少年院に収容される。少年院では、非行深度等により区別し収容され、共同生活を通して、生活習慣の改善や学習、勤労意欲の育成、教科教育、職業訓練などが行われる。ここでは、刑事施設及び少年院など矯正施設における犯罪者や非行少年の処遇について学ぶ。	1
犯罪者の処遇・社会復帰2 更生保護における犯罪者処遇 犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起させないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉での自立支援が必要である。ここでは、社会の中での働きかけ(処遇)を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度や新しい専門的処遇プログラムの概要、さらには、更生保護制度の現状と今後の展望について学ぶ。	1
レポート作成、添削指導	15
	計 75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	心理学的支援法（心理療法）	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法（認知行動療法）の三つを中心に学修していく。	
授業の到達目標	カウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修し、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	福島脩美『総説カウンセリング心理学』金子書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
I カウンセリングとは何か （該当箇所：教科書pp.2-45） 現代社会とカウンセリング：カウンセリングを含む相談活動の現状について知る。		1
カウンセリングの定義、歴史、社会的背景（該当箇所：教科書p.23） ：相談とカウンセリングの違い、コンサルテーション、リエゾン、コーディネーションについて知る。		1
II カウンセリングの構造と機能 （該当箇所：教科書pp.46-153） カウンセリングの構造：構造とは何を指すか。また、カウンセリングにおけるさまざまな枠とその意義を知る。		1
カウンセリングのはじめから終わりまで（該当箇所：教科書p.61） ：カウンセリングは通常、継続的に面接が行われ、数年にわたることもある。そのプロセス（過程）を概観する。		1
カウンセリングの基本的態度と技法1（該当箇所：教科書p.78） ：ロジャーズをベースとして、アイビーのマイクロカウンセリングのモデルを学ぶ。		1
カウンセリングの基本的態度と技法2 ：前回に続き、イーガンとカーカフ、それぞれのカウンセリングのモデルを学ぶ。		1
心理アセスメントと個性の理解（該当箇所：教科書p.109） ：心理アセスメントとは、心理テストの施行を含む包括的なものであることを学ぶ。		1
カウンセリングの生成プロセス（該当箇所：教科書p.129） ：単なる相談とは異なる、カウンセリング独特のプロセスについて知っておく。		1
III 洞察と気づきへの手がかりを求めて （該当箇所：教科書pp.154-195） 無意識過程への視線：フロイトの精神分析理論におけるこころのとらえ方を学ぶ。		1
関係性と気づきへの視線（該当箇所：教科書p.170） ：ロジャーズの人間中心理論におけるこころのとらえ方を学ぶ。		1
日本で生まれた心理療法（該当箇所：教科書p.183） ：森田療法、内観法について学ぶ。		1
IV はたらきかけの手がかりを求めて （該当箇所：教科書pp.196-243） 身体への定位と注意集中：催眠法、自律訓練法について学ぶ。		1

行動論的アプローチ(該当箇所:教科書p.206) :行動療法、認知行動療法におけるこころのとらえ方を学ぶ。	1
カウンセリングの多面的アプローチ(該当箇所:教科書p.221) :折衷主義、多面的アプローチについて学ぶ。	1
V カウンセリングを学ぶ (該当箇所:教科書pp.244-269) 専門家として学ぶということ:専門家としての学びに求められることを知る。	1
レポート作成、添削指導	15
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	産業・組織心理学	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	人は社会生活を送る上で、必ずといっていいほど組織集団に所属することになる。 本科目では、組織という社会的文脈の中で、個人が状況をどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらに、リーダーシップ行動や組織における意思決定の～功罪などを学ぶことにより、職場における問題(キャリア形成に関するを含む。)に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動について理解を深める。本科目は、組織が産業効率を上げるための心理学だけではなく、個人がメンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、職務満足や職場におけるストレスなどについて理解を深める。	
授業の到達目標	職務満足や職場におけるストレスなどについて理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	山口裕幸、他『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
組織心理学とはⅠ：組織心理学が扱ってきたテーマ、組織心理学の歴史等について学修すること。また、コラムの科学的管理法、ホーソン研究、オープンシstem・アフォーラについても学ぶこと。(テキスト：Ⅰ産業・組織心理学の歴史の意義とテーマ)		1
組織心理学とはⅡ：組織と個人の関係、組織行動、安全と健康(メンタルヘルス) 消費者行動とマーケティングの各項目についてまとめること。(テキスト：Ⅰ産業・組織心理学の歴史の意義とテーマ)		1
ワーク・モチベーションⅠ：基礎学習として心理学で扱う動機づけ(内容、過程、動機、動機づけ、内発的動機づけ、達成動機)についてまとめること。(テキスト：Ⅱワーク・モチベーション)		1
ワーク・モチベーションⅡ：組織ならではの動機づけについて考える。期待理論、目標設定理論、公平理論、職務満足感、コミットメントなどについて学修すること。さらに、職務満足感の中で、ハーズバーグの二要因論は大切である。(テキスト：Ⅱワーク・モチベーション)		1
採用と面接：採用選考の内容、適性の問題、採用選考の方法(採用試験、適性テスト、面接内容)などについてまとめること(テキスト：Ⅲ採用と面接)		1
人事評価：人的資源管理(マネジメント、HRM、QC サークル) 人事評価(評価制度、評価の方法と内容) 昇進・昇格、報酬制度、360 度多面評価、アセスメント・センター、コンペテンシーなどについて学ぶ。(テキスト：Ⅳ人事評価)		1
キャリア発達Ⅰ：キャリアの内容についてまとめること。次に、キャリア発達では、発達の視点から良く整理して見ること(ガイダンス、職業意識の発達、組織内キャリア) ホランドの研究やシャインの組織内キャリア発達段階など、コラム(キャリア・ライフ、キャリア・アンカー)についてもよく見ること。(テキスト：Ⅴキャリア発達)		1
キャリア発達Ⅱ：キャリア発達の各理論(クランボルト、ブリッジスの理論)について見ること。また、人材育成(OJT、Off-JT、自己啓発など) 技術の伝承などのメンタリング、垂直的交換関係、キャリアストレス、キャリアカウンセリングについてもよく見ること。(テキスト：Ⅴキャリア発達)		1
職場のコミュニケーションと人間関係Ⅰ：職場集団の特性(職場集団の特性、職場集団の発達、規範) 職場規範の測定法、職場のチームワーク、職場のコミュニケーションについてまとめること(テキスト：Ⅵ職場のコミュニケーションと人間関係)		1

職場のコミュニケーションと人間関係Ⅱ:職場で発生する事態に対する問題を中心に検討すること。職場でのマネジメント、会議による意思決定過程の特性、職場の人間関係・対人葛藤・対人葛藤の処理などを見ること。(テキスト:Ⅵ職場のコミュニケーションと人間関係)	1
リーダーシップ:リーダーシップの内容と特性についてまとめること。また、古典的リーダーシップ論(専制型、民主型、自由放任型)PM型リーダーシップ論など各理論があるので、まとめること。また、組織変革とリーダーシップでは、リーダーシップの特徴があるので良く見ておく(テキスト:Ⅶリーダーシップ)	1
消費者行動とマーケティング:消費者行動の心理的分析とマーケティングがあるので良く見ておくこと。また、くちコミの影響や悪徳商法についても良く見ておくこと。(テキスト:Ⅷ消費行動とマーケティング)	1
仕事の能率と安全:仕事をするにあたり、効率性を求める一方で、仕事の安全・安心が大切になっている。ヒューマン・エラーによる事故の検討から安心・安全を人間工学と関連して、見ていく必要がある。(テキスト:Ⅸ仕事の能率と安全)	1
職場のストレスⅠ:職場ストレス(ストレス内容、セリエ、ラザルス説、ライフイベント、職務ストレス、タイプA 行動パターン、ワーク・ファミリー・コンフリクトなど)をまとめること。(テキスト:X 職場のストレスとメンタルヘルス)	1
職場ストレスⅡ:メンタルヘルスでは、過労死、ストレス対処(コーピング) ソーシャル・サポート、EPA についてもよく見ておくこと。また、職場の健康管理、バーンアウトも見ておくこと。(テキスト:X 職場のストレスとメンタルヘルス)	1
レポート作成、添削指導	15
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神保健学	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。 具体的には、精神的健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た(1)家族の課題とアプローチ、(2)学校教育の課題とアプローチ(3)勤労者の課題とアプローチ(4)現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種(保健師等)と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。	
授業の到達目標	職精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学—精神保健の課題と支援』 へるす出版	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
現代社会と精神保健、精神保健の意義と課題 WHO 日本調査、改革ビジョン、健康日本 21、健康指標、DALY、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、第1～3次予防、ライフサイクル、エリクソン		1
ライフサイクルにおける精神保健、乳幼児期、学童期 乳幼児の現状、エリクソンの発達課題、ピアジェ、子育て負担と子育て支援、DV、虐待、いじめ、不登校、学級崩壊		1
ライフサイクルにおける精神保健、思春期、青年期 思春期の課題・問題と対応、アイデンティティ、性意識、自傷、家庭内暴力、非行、青年と危機、自我同一性の拡散		1
ライフサイクルにおける精神保健、成人期 30代の危機、下流社会、生活習慣病、うつ病、自殺、職場・地域における精神保健		1
ライフサイクルにおける精神保健、老年期、認知症について 老化と精神保健、老人虐待、認知症対策、認知症の予防、保健・医療・福祉の連携、権利擁護、若年認知症対策		1
わが国の精神障害対策 精神科医療対策の歴史・変遷、精神科病院の現状、社会復帰・福祉対策の展開、障害者総合支援法(旧・障害者自立支援法)下での各種障害者福祉サービス、当事者活動		1
アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について アルコール依存症の特徴・精神症状、治療、家族支援、社会的問題、各種薬物の種類と特徴、薬物乱用防止対策		1
思春期の精神保健対策 異文化との共存、行動と規範意識、社会背景、精神保健システムの構築、大人がすべきこと		1
地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策 こころの病、障害学、ICF、こころの健康づくり、医療観察法の概要・入院処遇・通院処遇		1
緩和ケアと精神保健、精神保健における技法・カウンセリングやケアについて クオリティ・オブ・ライフ、トータルペイン、実存的苦痛、苦痛のマネジメント、チーム医療、家族・遺族のケア		1

家庭における精神保健、学校における精神保健 少子高齢社会、育児支援、児童虐待防止、学校現場の様相、いじめ、発達障害、各種機関との連携	1
地域精神保健の現状と課題、精神保健福祉に関する調査研究 日本の精神保健施策、地域精神保健活動の実際、各種関係法規・施策、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、実態調査	1
メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携 精神保健福祉士の役割、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、保健専門職の役割、連携のあり方	1
世界の精神保健 健康と医療における格差、DALY、世界的に重要なメンタルヘルスの問題 世界の精神科医療サービスと精神科病院、WHO の勧告、精神保健の流れ、保健医療改革の動向	1
これまでの精神保健学の学修内容をまとめる。	1
レポート作成、添削指導	15
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会調査法	
担当教員の実務経験	社会福祉士、通所介護施設勤務経験有	
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	社会調査は、社会的事実を認識するための方法であり、社会福祉士が行う相談援助活動を支え、基礎づけるものである。本 科目では、この社会調査の基本的性格を考察し、その代表的な調査技法である統計調査法と事例調査法の基本原理と方法、 手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析の方法、質問紙、調査票の作成の手順、観察や面接の 技法といった具体的な方法論も学ぶ。	
授業の到達目標	各調査方法の方法と特徴について理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会調査の歴史（1：ヨーロッパ） （重要人物の業績とその特徴：ハワード、ル・プレー、ブース、ラウンリー 等）		1
社会調査の歴史（2：日本） （重要人物や事項とその特徴：横山源之助、国勢調査の開始、戸田貞三 等）		1
調査の手順 （アイデアから研究テーマへ：ブレインストーミング、KJ法の概要、先行研究の検討：インターネット等を利用した先行研究の探し方、一般仮説と作業 仮説のたて方）		1
社会調査の種類 （量的調査と質的調査の概要：両調査の特徴を各所方法の長所と短所を中心に概観する）		1
量的調査と質的調査の比較 （とくに両者の特質の比較：それぞれの特質を表にし比較する、専門用語の意味：全数調査・標本調査・母集団・サ プル・サンプリング 等、標本抽 出法：有意抽出と無作為抽出とそれらの具体的抽出方法）		1
量的調査（1） （調査の手順概要：調査の企画から報告書の作成までの手順の概要、依頼文書の作り方：調査を依頼する施設長等への依頼文書の作り方）		1
量的調査（2） （質問紙の作成、ワーディングの注意点：威光暗示効果・キャリーオーバー効果・ダブルバーレル質問 等）		1
量的調査（3） （標本数と標本誤差、平均値、中央値、偏差、分散、標準偏差などの概要：それぞれの用語の意味を理解する）		1
量的調査（4） （量的変数間の関連性：代表的なものを理解する、度数分布図のいろいろ：棒図表・ヒストグラム・度数多角形・パ イ図表・帯図表の特徴を知る、 信頼性と妥当性・横断調査と縦断調査・クロス集計の意味を理解する）		1
質的調査（1） （質的調査の特徴：量的調査との比較より理解する、質的調査の種類：観察法と面接法、KJ 法とグランデッドセオリー法の概要）		1
質的調査（2） （調査手法：観察法と面接法および記録の種類について具体的な内容の理解）		1
質的調査（3） （質的調査のデータ分析：KJ法やグランデッドセオリー法の具体的な内容の理解）		1
社会調査における倫理 （社会調査士倫理綱領や個人情報保護法等から、社会調査に必要な倫理を知る）		1
報告書のまとめ方（1） （報告書と論文の特性比較、プレゼンテーションの方法、報告書や論文の一般的な構成を知る）		1
報告書のまとめ方（2） （報告書等の作成に必要な、項目の数字のつけ方の基本、引用文献・参考文献の書き方を知る）		1
レポート作成、添削指導		15
計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	地域福祉の基礎	
担当教員の実務経験	地域包括支援センター勤務経験有	
対象学生	心理学科4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義[○]・ 演 習[○]・実 習[]	
授業の概要	地域福祉の理念・歴史・制度を学び、地域住民の生活課題に対する支援のあり方を理解する。地域共生社会の実現に向けて、多職種連携や住民参加、地域資源の活用について具体的事例を通して学習する。	
授業の到達目標	地域福祉の理念や制度、実践方法について理解し、地域住民の生活課題を把握するとともに、多職種・多機関との連携や地域資源の活用を通じた課題解決のあり方を考察できる力を身に付ける。さらに、地域共生社会の実現に向けた地域福祉の役割について説明できるようになる。	
成績評価方法と基準	科目試験の成績及び出席状況、授業態度を総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	『最新・社会福祉士養成講座 地域福祉と包括的支援体制』中央法規	
授業上の注意点		
授業計画(内容)		コマ数
1. 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題		1
2. 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①		1
3. 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②		1
4. 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働①		1
5. 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働②		1
6. 第4章 地域福祉の基本的な考え方①		1
7. 第4章 地域福祉の基本的な考え方②		1
8. 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開①		1
9. 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開②		1
10. 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		1
11. 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用		1
12. 第8章 福祉行財政システム		1
13. フィールドワーク～地域における包括的支援体制に関連する機関～		1
14. ミニテスト		1
15. 科目テスト		1
計		15
授業単位数		1

